



育連だより



<https://web-k.jp/ikuren/new/>

ガールスカウトの活動

各団 夏の取り組み

ガールスカウト川崎市連絡会

【14団】

●馬のマッサージをみて、つぼって何か分からなかったけどつぼが何か分かりました。馬のおなかの中に赤ちゃんがいるか調べるところをみて、ああやるんだと思いました。

馬に乗ってみて馬の目線はけっこう高くおどろきました。(小2：青木美結)

●御殿場カルチャーファームで馬のことについて色々知ることができて楽しかったです。

馬に乗ったのは初めてで、馬から見る景色がすごくきれいでした。(小6：渡邊礼菜)



【31団】「ホースセラピー」 (中1：高橋舞)

(御殿場カルチャーファーム) 7月30日

今回は馬と交流できていい経験ができました。

馬に乗ってみたり馬の小屋を掃除したり毛の手入れをしたりと、同じ生き物として関わることができてとても楽しかったです。

馬の体のことやしぐさなど、馬のことも知ることができて、また一歩、生き物のことがわかるようになりました。

他の団のシニアと知り合って、私が中国語を教える代わりに英語を教えてもらう約束ができたのもうれしかったです。



【40団】「夏キャンプ」 (7/30～8/2)

川崎市八ヶ岳少年自然の家で、3年ぶりに団キャンプを行うことが出来ました。

●他の部門の子達とキャンプを通して仲良くなれたので良かったです。(中3：浅貝楓)

●野外炊事では声を掛け合い、キャンプを通して先を見通し、みんなと協力する事の大切さを改めて実感しました。(小6：山田朋香)

●キャンプファイヤーでスタンプをしたのが楽しかったです。みんなで一生けんめい考えて練習したかいがありました。またみんなで協力してやりたいです。

(小3：シンプソン織美亜)



【17団】

7月16日～18日に山梨県立八ヶ岳少年自然の家で、当団24名が3年ぶりの団キャンプを実施しました。

竹材キャンプクラフト、クライミングウォール、野外料理、冒険ハイク、マクラメ編み、軍手ばさみのクラフト等を思い切り楽しみました。

また、満天の星空や蝉の羽化の観察もでき、野外ならではの経験を沢山し、学びの多い充実したキャンプとなりました。

この経験を、今後の活動に活かしていきたいと思います。



【32団】

(高1：井上真琴)

日本のガールスカウト運動100周年記念インターナショナルキャンプ “Girls can change the World Camp” (8月4日～8日 戸隠会場)に参加しました。

キャンプで一番学びがあったのは、SDGs目標5に向かってアクションを起こすためのオンライン交流ワークショップです。自分の意見をまとめるだけでなく、グループになって話し合うことでジェンダー平等について違った視点から見られたので、より深く知ることができました。伝えることと聞くこと両方が大事だと分かりました。

選択プログラムでヤングリーダーが英語で海外の人と交流しているのを見てとても憧れました。私もたくさんの人とコミュニケーションが取れるように勉強も頑張りたいと思いました。

【48団】

6月25日～26日、青少年の家でキャンプ前に仲間意識を高め、協力しながら行動する舎営をしました。

●楽しかったこと1つ目は、3人で笑いあいました。2つ目はクラフト作りです。ネイルを使ってピンを自分のオリジナルに変えたのが楽しかったです。

(小3：國井円香)

●かまどの火おこしは、細く切った木を空気が入るように組む。料理では鍋が大きくて具材を混ぜるのが大変でした。(小6：原島愛奈)

●虫が怖かったけど、みんなと過ごす時間が楽しかった。

(小6：浦野佳希)



3年ぶりのバスレクリエーションへ

毎年、子ども会会員の皆さんが楽しみにしている菅子ども部会主催のバスレクリエーション（通称：バスレク）。ここ2年間は新型コロナウイルスの影響で開催できませんでしたが、7月3日に3年ぶりに行くことができました。総勢118名で3台のバスに分かれて、いざ埼玉県秩父郡横瀬町にある小松沢レジャー農園へ。

到着後、子どもたちは横瀬川でマスつかみ取り＆水遊びへ。一部川がせき止められた場所でマスを捕まえます。最初は、追いかけても追いかけても捕まえるのに苦労していましたが、コツをつかむとうまく追い込んで、素早く捕まえてました。大人も暑かったので、ちょっと水の中へ。いつの間にか始まる、水の掛け合い…。子どもよりも大人の方がはしゃいでいたかもしれませんね。（笑）



川遊びで楽しんだ後は、富士山溶岩焼きバーベキューです。溶岩から発せられる遠赤外線効果で、肉も野菜も美味しく焼けるそうです。加えて先ほど川で捕まえてきたマスの炭火焼。やはり、屋外でみんなで食べるご飯は、楽しくさらに美味しく感じますね。



多摩区子ども会連合会 山本 哲 央

昼食後、子どもたちは昆虫採集と竹とんぼ作りを楽しみました。昆虫採集は、自然さながらの「昆虫の森」でカブトムシ採りです。みんな、虫かごに入れてお持ち帰りしました。その後は、「自分で作った竹とんぼを大空に飛ばそう！」ということで、竹とんぼ作り。うまくナイフを使って、竹を削っていきます。作った竹とんぼは、その場で飛ばして楽しんでいました。



大人は、秩父山中から切り出した原木で、自然の中でじっくりと育ったシイタケのシイタケ狩りです。持ち帰って食べましたが、肉厚で美味しいシイタケでした。



「楽しかった」「来年も来たい」という感想をたくさんいただきましたし、多くの子どもたちの笑顔が見れたのは最高でした。来年も楽しいバスレクを企画したいと思います。

中原区少年消防クラブの活動

去る6月18日、令和4年度の中原地区少年消防クラブの結成式が中原消防署において行われ、井田小・下小田中小学校の児童男女21名が任命され防火や救命に対する知識の習得に意欲を見せております。

式後、署内で消防車両、また消防隊の救援活動を身近に見学し、はしご車の試乗を体験しました。

コロナ禍第7波が増えつつある中、8月3日に県防災センター（消防学校）に見学に行きました。

最初、講堂での集合・点呼訓練に戸惑っていた児童達も数回の練習ですぐにスムーズにできるようになり、その都度繰り返し点呼を行いました。

中原区子ども会連合会 金子 文 雄

「起震・暴風・煙」体験では「怖かったけどおもしろかった。」と、まだ経験していない素直な感想だと思いました。

その後、校庭で消防車の試乗と放水訓練を体験。当日は気温も高く暑い1日でしたが、良い体験になったと思います。

これから防災体験施設（ソナエリア東京）、川崎市消防局航空基地（新木場）の見学等、1年を通じて消防署において「消防・救命・防災」について体験させて頂くことになっており、児童達が少しでもこの経験を活かして頂ければと思っております。



手旗受信競技について

川崎海洋少年団 山岡 修

令和4年8月5日～7日の期間で、『第55回 日本海洋少年団全国大会 in 横浜～横浜から未来へ出航！～』を開催する予定でした。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者が爆発的に増加していることを考えて残念ながら中止となりました。

全国大会は、日ごろの訓練を試す良い機会であるいろいろな競技がありますが、今回は手旗信号の競技を紹介いたします。

手旗信号は海上で、声の届かない遠く離れた場所にいる人に思いを伝えるために、2本の手旗を規則正しく動かして文字を送る通信手段です。

手旗受信競技は、手旗信号を送信するひとりの送信者と手旗信号を読み取る複数の受信者で競技を行います。受信者が競技の参加者となります。

受信者は、前後左右1メートルの間隔をあけて座り、受信用紙と筆記用具を持ち準備します。送

信文は、適当に字を選んだ「無意味」50字、文章になっている「有意味」50字の計100字が競技採点の対象となります。

送信者は1分間40文字のペースで右手に赤い旗、左手に白い旗を持って、規則正しく動かし送信します。

競技は、笛の音で始めると、手旗の動く音だけが聞こえる張り詰めた空気の中、約2分半行われます。

採点は、100字を間違いなく受信できれば満点賞となり、満点者には賞状と満点章バッジがもらえます。

日頃の成果を試す全国大会ですが、競技以外にも友情の集いなど楽しみがありますので、来年は新型コロナウイルスを克服して、全国大会が開催できますように祈願します。



第18回 日本スカウトジャンボリー

ボーイスカウト川崎地区協議会 18NSJ 特別委員長 大坪 邦裕

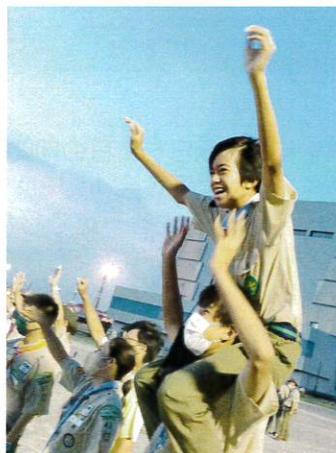
この夏開催された、第18回 日本スカウトジャンボリー (18NSJ) は、これまでの大会とは大きく様相が異なりました。県連盟ごとに分散運営する「サテライト開催」、各都道府県から選抜されたスカウトによる「代表スカウトキャンプ」、そして、自隊の夏期野営に共通のジャンボリープログラムを盛り込むことで18NSJへの参加体験を得る「ジャンボリーサマー2022」。参加の形態は多様ですが、コロナ禍という逆境の中でもオンラインを活用し、時間と場所を超えて全国のスカウトたちがつながる、日本連盟創立100周年の節目、そして次の時代の始まりを象徴する新しい大会となりました。

「サテライト」の中で最大規模となる「神奈川サテライト」の会場となったのは、川崎市の東扇島東公園。木々ではなくビルや工場に囲まれる都市環境、しかも公共の公園で1200名が5泊6日のキャンプをするという例のない試み。川崎市をはじめ、多くの関係各所のご協力を頂きながら、約1年間にわたり準備を進め、スカウトたちも参加

に向けた準備や訓練をしてきましたが、コロナ感染の急拡大とそれにとまなう地域医療の逼迫した状況に鑑み、参加者の安全・健康を優先し、開催2週間前に「中止」という苦渋の判断となりました。

とはいえ、18NSJが中止になったわけではなく、神奈川サテライトに参加するはずだったスカウトたちは、自隊の活動の中でジャンボリー活動を継続しつつ、8月7日に行われた「ジャンボリー大集会」や、9日に急遽企画・実施された「One Day Jamboree 東扇島」への参加を通じて多くのスカウト仲間とつながり、一時ではありましたが「2022年の夏にジャンボリーに参加した」という確かな思い出を持ち帰ってくれたことと思います。

神奈川サテライトが掲げていたテーマは「つなげ！情熱島 (FAN-tastic Island)」。またしても新型コロナウイルスの邪魔が入ってしまいました。開催に向けてスカウトや関係者が注いだ情熱が、今後の活動、そして次のジャンボリーにつながることを期待しています。



青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

発行 川崎市青少年育成連盟

事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10

生活文化会館（てくのかわさき）3階

TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

印刷 有限会社 アキプリント社

川崎市子ども会連盟

ガールスカウト川崎市連絡会



ボーイスカウト川崎地区協議会

川崎海洋少年団